

子供のけが『捻挫(ねんざ)と骨折』

子供は、日ごろから運動量が多い半面、骨や筋肉がまだ弱いため、よく『けが』をします。自覚症状も曖昧なうえに体重が軽いせいで『けが』の程度が軽く、単なる打撲やうちみと判断されしばしば放置されてしまいます。

「捻挫(ねんざ)」とは、関節の動く範囲以上に関節を動かしてしまった時に起こる症状で、脱臼や骨折をしていない場合を呼びます。子供の捻挫は、関節が柔らかく体重も軽いお陰で、成人の場合と比べて軽症の場合がほとんどです。重度の捻挫になると靭帯(じんたい)損傷の発生もまれに起こります。

しかし、子供の「骨折」は、成人の場合と比べて軽微な外傷で起こりやすいためにしばしば発生します。これは子供の骨がとても柔らかいことが原因です。例えるなら成人の骨

が瀬戸物なら子供の骨はアルミ缶といった具合で、子供の骨は柔らかい故に変形もしやすい訳ですが、逆に柔らかい故に完全にポッキリと骨折せず軽微な骨折の場合がほとんどです。また、骨折が治る際には、多くの場合で元の状態に自然矯正される能力が子供の骨には存在するため、骨がたとえ曲がってついても角度が30度くらいまでなら、いずれは自然矯正されてまっすぐになります。しかし、子供の骨の端にある成長軟骨(骨端軟骨)が骨折した場合はしばしば成長障害が起きてしまいます。ここの成長障害は自然矯正が起こりにくく、将来に変形を残すために注意が必要です。

しげの整形外科
スポーツクリニック
院長 重野陽一

